



## 総合病院に最新型血管撮影装置を導入

～脳卒中の治療に応用広がる～

11月21日、市立総合病院に最新型の頭部・全身用の血管撮影装置が設置されました。今回導入した装置は、シーメンス社製の「Latis zeBA Twin」という、FD(フラットディテクタ※1)および被ばく低減プログラムを搭載した、県下では初めて導入される最新鋭のもので、この装置の導入で、より安全・迅速な検査と治療が期待されます。

■問い合わせ 市立総合病院総務課(☎2111・内線2860)

### 総

合病院では24時間体制で脳卒中(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血)の診療に当たっています。中でも脳梗塞(血栓が詰まる病気)は一命をとり留めても重い後遺症を残し、社会問題となっています。

脳神経外科では脳梗塞の治療に特に力を入れており、今年から脳梗塞の症状で来院された方に、脳血管内の血栓をカテーテル(※2)で早期に除去する治療が可能となりました。この治療は症状がでてからすぐに病院にいられた方に最も効果があります。現在東濃地域では当院で行えません。開始してまだ半年ですが、この治療によって社会復帰された方が何人もいらっしゃいます。

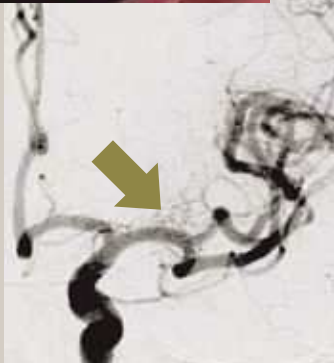
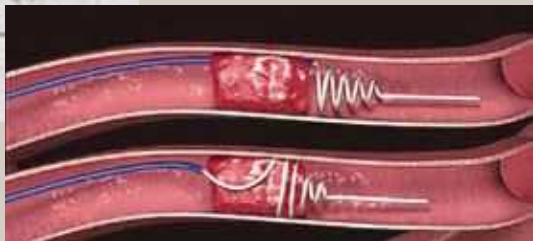
### 今

回、新しく導入された血管撮影装置は、解像度が高く、少ない造影剤の量で、血管をはっきり見ることが出来ます。また一度に二方向の撮影ができるため、術者が手元で直接機器を操作でき、検査時間が短縮できます。さらにこの装置では、血管を三次元的に表示することやCTのような断面画像を作ること、総合的な画像診断ができるため、より安全・迅速に検査・治療(血管内手術など)が可能となります。

また、くも膜下出血の原因となる脳動脈瘤に対する治療にも役立ちます。今までは開頭手術といって頭の皮膚を切って行う手術が一般的でしたが、当院では数年前から「血管内治療」と



## カテーテルによる 血管内治療



- 左上 脳へ行く太い血管が血栓（血の塊）で詰まっています。
- 中 脳血管内にらせん状のワイヤーを進め、血栓に差し込んでからめ取り、引き抜きます。
- 右下 脳血管内の血栓をカテーテルで除去する治療により、血管が再開通しました。

いう、カテーテルで足の血管から頭の脳動脈瘤を治療する方法を取り入れています。すべての患者の動脈瘤をこの方法で治せるわけではありませんが、新しい装置の導入で今まで治療困難だった脳動脈瘤にも対応できるようになり、治療の幅が広がるものと考えています。

一方、脳の血管をつなぐバイパス手術の術前検査など、治療方針を立てるためや脳の病気に疑った場合に診断するためにも用いられます。これらの検査や手術において、新しい装置により体の負担が少なくて済むようになっています。脳卒中の心配をされている方は、一度、総合病院

の神経内科・脳神経外科外来にてご相談ください。

また、総合病院の消化器科では、肝臓の腫瘍の血管内治療を精力的に進めています。この装置により、さらに精密な治療ができると期待されます。その他の全身の病気の診断・治療にも新しい血管撮影装置の応用が広がるものと考えています。

- ※1 X線画像をフィルムなどを介さず、直接・自動的にデジタル情報として得られるX線検出器。これにより体内の諸状況を容易に観察することができます。
- ※2 血管中に挿入する柔らかい中空の管

## 東濃地域における 脳卒中治療の中核を担う

土岐市立総合病院 脳神経外科

- 医師 野田伸司
- 医師 北島英臣
- 医師 中川二郎



(後中)野田医師 (前右)北島医師 (前左)中川医師